



Kawana Hospital

質の高い在宅療養支援を目指して

Vol.14

NEWS LETTER

かわな病院 在宅ケアセンター通信



新年あけましておめでとうございます
今年もよろしくお願ひします



元旦能登半島を襲った大震災では、多くの方々が亡くなり被災されました。心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。この地域も南海地震がいつ起きてもおかしくありません。その時、在宅医療・ケアをどのように支え維持するのか、十分な事前準備と行動計画が必要です。今年は「大地震への備え」を私たちの重要なテーマとして考えていきたいと思ひます。

新型コロナも5類となりましたが、いまだに現場ではコロナ・インフル同時流行で苦しめられています。重症化リスクが減ったとはいえ、まだまだ体の弱った方々には大きな脅威となります。私たちが油断することなく、感染防止と迅速な診断・治療に努めて参ります。

在宅ケアセンターの医師・スタッフ一同、これからも質の高い在宅医療・ケアや緩和ケアを提供し、地域の皆様のお役に立てよう努力して参ります。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



かわな病院 在宅ケアセンター長
亀井克典



在宅ケアセンター長 亀井克典が 日本医師会・産経新聞社共催第12回「赤ひげ大賞」大賞を受賞!

「臓器や病気だけを診るのではなく、人や地域全体を診る医師になりたい」という志のもと、医学部卒業後、医師不足の地方公的病院で内科医として幅広い分野で地域医療に貢献。地元名古屋に戻り、在宅医療を中心に地域医療・介護連携に尽力。在宅医療連携の推進やICT連携ツール構築、在宅看取りサポートシステムの提案を行い、在宅ケアセンターも建設。800人以上の患者に訪問診療し、年間250人以上の在宅看取りを実施。また、がん末期患者を支えるシステム「在宅ホスピスかわな」を構築し、緩和ケアの質の向上に努めています。現在も外来診療に加えて常時約60名以上の在宅主治医を担当し、十数名のがん末期在宅緩和ケア患者の24時間ファーストコール、臨時対応に従事し続けています。その数々の功績が認められ今回受賞する運びとなりました。

赤ひげ大賞とは?

全国の都道府県医師会の推薦した「地域の医療現場で長年にわたり、健康を中心に地域住民の生活を支えている医師」を対象とし、毎年5人選定され地域に貢献する医師に対し贈られる賞です。赤ひげ大賞の名称は、山本周五郎の時代小説「赤ひげ診療譚」に由来して命名され、地域に密着して人々の健康を支えている医師の功績を顕賞し、広く国民に伝えるとともに、次代の日本を支える地域医療の大切さをアピールする事業として平成24年に創設されました。

日本医師会

赤ひげ大賞

日本医師会
赤ひげ大賞 公式HP

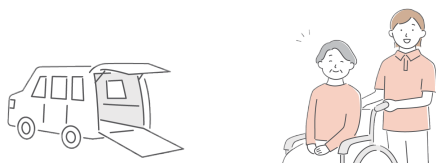


在宅ケアセンターのご紹介

● スタッフインタビュー サービス付高齢者向け住宅 アンジュかわな Mさん

義父の半身麻痺をきっかけに

私が介護職を目指したきっかけは、義父が半身麻痺だったことだと思います。当時まだ小さい自分の子供の世事に精いっぱい、介護は全面的に義母に任せきりでした。徐々に義母も高齢になり、義父の介護が負担になっている様子を日々感じていました。子供の世話もひと段落したので自分も力になりたいと思い、介護老人保健施設やグループホームで働いてきました。仕事を通して切磋琢磨できるたくさんの方の仲間にも出会いましたが、最期まで看取ることが出来ないさびしさも感じるようになりました。利用者さんやご家族に寄り添える介護がしたいと思い、緩和ケアで少しでも穏やかに過ごせ、家庭的で暖かな雰囲気の中で見守り、寄り添っている「アンジュかわな」に入職を決めました。



日々の業務

アンジュかわなの勤務は早番・日勤・遅番・夜勤のバランス良い交代シフト制で、入居者さんの食事の提供や介助、トイレ誘導、オムツ交換、入浴等の身体介護、リネン交換や洗濯などの生活支援サービスを行っています。入居者さんの意見を取り入れたサービスを提供するケアプランに沿って、その人らしい生活が送れるように支援しています。留置バルーンや点滴、経管栄養、HOT(在宅酸素)など医療的ケアの必要な利用者さんが多いため、医師・看護師・リハビリスタッフと連携して入居者さんの状態を共有し、全員が同じケアが出来るように努めています。

私が介護職を目指した

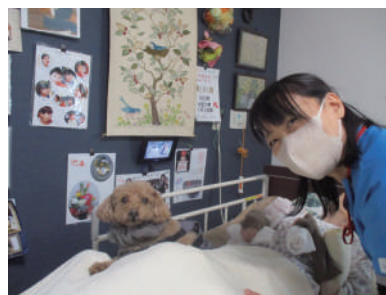
大切にしていること

利用者さんへの尊重と思いやりのある対応を、緩和ケアの介護職としてもっとも大切にしています。透析、末期がんや難病を抱え、自宅での生活が困難で医療依存度の高い方のサポートは時には意思疎通が難しく、心が痛む事もありますが、他のケアスタッフや看護師と相談・協力し最善のケアを提供することを心がけています。また、利用者さんがいつ最期の時を迎えるかもしれないことを常に意識して対応しています。

仕事と私生活の調和

以前の職場は休日出勤や残業が多く、私生活があまりありませんでした。現在の職場では有給休暇が取得できることはもちろん、介護休暇や育児休暇を取得しているスタッフもいます。休暇制度を利用して、東京に住んでいる娘の出産にも立ち会い、孫の顔を見ることができました！趣味はパンやケーキ作りで、手作りのスイーツで家族や友人に喜んでもらうのが大好きです。また、愛犬との散歩や遊びは日々のストレス解消になっています。このように休日を充実させてリフレッシュして仕事に取り組むことが私のワークライフバランスとなっています。

以前の職場は休日出勤や残業が多く、私



ペットも大切な家族! アンジュかわなでは、事前申請すれば利用者さまご自身のペットも居室に連れてこれますよ

一日でも長く、その人らしい暮らしをご自宅で続けられるよう、全力でサポートいたします。

〒466-0807 名古屋市昭和区山花町62番地1

在宅ケアセンターNEWS LETTER

発行:医療法人寿会 かわな病院在宅ケアセンター 総務企画

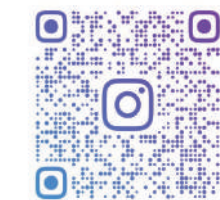
☎052-759-5535 FAX052-759-5537

✉ info@kawanahp.jp

🏠 <https://kawanahp.jp/center/>

📘 <https://www.facebook.com/KawanaHP.community.care/>

かわな病院 公式Instagram



KAWANAHP_OFFICIAL

病院ニュース、各種セミナー・勉強会のご案内、病院周辺情報など、院内各部署が情報発信を行っています。いつもとは違った病院の顔が見れるかも。フォローしてくださいね🐦